



こんな本も読んでみましょう

選者：日本女子大学家政学部児童学科 教授 石井 光恵

日本の  
昔話

## 「ちからたろう」

カモチのちからたろうが、ばけものたいじの大かつやく！

びんぼうなじいさんとばあさんが、あかでつくった人ぎょうからうまれた、すごいカモチのちからたろう。金(かな)ぼうをかた手に、のっしじゃんが、のっしじゃんがと力だめしのたびにでます。みどうっこたろうと、いしこたろうにかつて、けらいにしたちからたろうは、ばけものたいじにむかって…。

日本の  
昔話

## 「さんねんねたろう」

ねてばかりのなまけものも、おきておもしろいちえをつかえば…

むかし、水(みず)ぶそくになやんでいたむらに、三年(ねん)もずっとねている、ねたろうという男(おとこ)がいました。もちろん、むら中のわらいものです。ですが、ねたろうはあるときむっくりおきて、山にのぼり、大きないわをがけの下におとしました。ねたろうは、なにをはじめたのでしょうか…？

静岡県の  
民話

## 「しっぺいたろう」

しっぺいたろう という、おもしろいなまえの犬(いぬ)が…

あるむらでは、まい年(とし)、おそろしいばけものをおそれて、むらのむすめをいけにえにさし出していました。そこをとおりかかったおぼうさんは、ばけものは「しっぺいたろう」という犬(いぬ)が大のいが手(て)だとしります。おぼうさんとしっぺいたろうは、ばけものをたいじして、いけにえのむすめをたすけることができるのでしょうか…？

日本の  
昔話

## 「だごだごころころ」(おだんごころころ)

まほうのしゃもじで、おにをやっつけろ！

だんごがころころころがって、それをおいかけたばあさんも、おにのあなの中へ入ってしまいます。ばあさんのつくるだんごは、とてもうまいので、おにたちは、かきまぜるといくらでもこなの出るしゃもじをわたして、まい日ばあさんにつくらせます。でもばあさんは、じいさんのところへかえりたくて、おにのあなからにげ出しますが…。